

令和5年度 熊野町立熊野第一小学校 研究推進計画

(1) 研究主題

自分の考えを表現できる児童の育成 ～協働的な学びを通して～

(2) 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編には、予想される社会的変化について、「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。」と示されている。つまり、これからの学校には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

本校は、令和3年度から、広島県教育委員会「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域」の指定校となっている。そこで、一昨年度より研究教科等を生活科・総合的な学習の時間に設定して研究を行ってきた。また、本校の児童の実態を基に、育てたい資質・能力を

- ① わかる・できる力 ～学習内容を理解し、それを基に問題を解決する子～
- ② 自分の考えを表現する力 ～自分に合った表現方法で、思いや考えを伝えることができる子～
- ③ 協働する力 ～友達と意見を交流しながら、よりよい考えを見付けようとする子～
- ④ 振り返る力 ～自分や友達の学びを振り返り、次の学習や生活に生かそうとする子～

と設定した。「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域」として、熊野中学校区の三校合同で系統的に育成を目指す資質・能力を設定し、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元計画を開発・実践することに加え、育成を目指す資質・能力を評価するためのルーブリックの開発と活用について研究を深めている。

学力向上については、町内小・中学校で統一した授業スタイルが確立され、「めあて」「まとめ」「振り返り」と思考の流れがわかるノート指導の工夫を行うなど、教職員の意識も向上し、一定の指導の成果が得られるようになった。また、学力の向上に向けて、児童の思いや願いを大切にしながら授業や単元を構成し、教師のファシリテート力の向上を目指しながら、探究的な学びへとつなぎ、これを授業改善に生かしてきている。

しかし、学力調査結果において、思考力を伴う問題や活用力を必要とする問題には継続的に課題がみられる。また、学校評価児童アンケートにおいて、「自分の考えを表現する力」については、8割以上が肯定的に回答しているものの、その他の資質・能力と比べ、改善傾向が見られにくく、自分の考えを表現することに苦手意識をもつ児童が全学年に一定数いる状況が続いている。

急速な社会の変化の中で、一人一人の児童が自分の良さや可能性を認識できる自己肯定感を育み、持続可能な社会の創り手となることを目指し、社会との連携及び協働によりその実現を図って自分の考えを表現していけるよう、本研究主題を設定した。

(3) 研究仮説

「協働的な学びの場」を児童の必要感を見据えて設定することや、その場を通して得られた考えについて意図的な振り返りを行わせることによって、自分の考えを表現することにつながるであろう。

(4) 研究内容

◎「協働的な学びの場」を創造する授業づくり

(ア) ○「協働的な学習活動」を充実させる思考の場の工夫

・思考スキルの明確化

①論理的に考える力…「比較する」、「分類する」、「理由付ける」、「構造化する」など

②批判的・創造的に考える力…「多角的に見る・多面的に見る」、「視点を移動する」、

「関連付ける」「つながりに気付く」など

・考えを表現し、互いの考えを交流することができるような話し合い活動の充実

・話し合いの場の設定の工夫や思考ツールの効果的な活用

(イ) ○系統的に育成を目指す資質・能力に即した「探究的な学習における内容」の充実

・生活科・総合的な学習の時間において、PBLの基本的な考え方を参考にした単元開発

・総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメントの視点を鑑み、研究教科等に設定している生活科・総合的な学習の時間に生かすことのできる教科単元での内容研究

(ウ) ○学習としての「評価」の充実

・振り返りの視点の明確化（学びのつながりや他者とのつながりを意識した振り返り・児童自らの実生活への活用の可能性・次時への課題・自己表現・自己変容・自己肯定感）

・育成を目指す資質・能力を評価するためのルーブリックの開発・活用（探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業）

・ポートフォリオ評価（児童が作成した成果物の保存や掲示、単元や授業ごとの児童の振り返りの変遷を記録する）

(5) 仮説検証方法

○教職員・児童への達成度調査・意識調査の実施と分析

○児童の学びに対する振り返りの分析

(6) 達成目標

○本校児童への意識調査

・「みんなで学習することを通して、自分の考えを表現することができた」の調査項目において、肯定的調査結果割合が増加する。（表現⇒発表、話し合い、書き表す、動作化、成果物、表情など）

(7) 研修計画

- ①全体研修（授業を伴わない場合は、校内研修）：全教職員で、授業研究や理論研修、協議会やワークショップを行う。成果及び課題を今後の単元開発や単元構成、また授業に生かす。
- ②新採研修の師範授業における一授業研修：新規採用教員や管理職、希望する教職員が参観する。成果及び課題を今後の単元構成や、授業に生かす。

○研修計画日程案

月	研修内容，全体研修授業公開教諭（学級／教科等）	講師
4月	○今年度の研究推進計画提案（研究主題，研究内容，検証の指標と計画） ○くまいちスタイル，学習規律の確認 ○校内研修「モジュールタイムについて」（研究推進部） ○校内研修（本年度の研究内容・授業者の決定と計画）	
5月	○校内研修「今年度の研究推進計画について」（研究推進部） 「生活科・総合的な学習の時間における単元内容とその開発について」 ○校内研修「研究の具体と授業実践に向けて（PBL含む）」（研究推進部）	
6月	○全体研修 指導案検討 3年 総合的な学習の時間	
7月	○7月12日（水）全体授業研修 3学年部 授業者：井手 恒輝教諭（3—3/総合的な学習の時間） ○7月24日（月）校内研修 総合的な学習の時間 「明日の評価に生かせる！『指導と評価の一体化』講座」講座 広島県立教育センターオンライン研修	がんくまプロジェクト兼 義務教育指導課 福田菜津美指導主事
8月	○全体研修シラバスの見直し ○令和5年度「学びの変革」推進のための実践交流会 （マナビノラボ Season2）8月3日（木）zoom によるオンライン研修	
9月	○全体研修 指導案検討 2年 算数科 ○全体研修 指導案検討 4年 国語科	
10月	○全体研修 指導案検討 5年 算数科 ○10月24日（火）全体授業研修 2学年部 授業者：谷岡 美那教諭（2—2/算数科） ○10月30日（月）全体授業研修 4学年部 授業者：市川 裕葵教諭（4—1/国語科）	広大附属東雲小 小林 秀訓先生 府中小 青木真智子校長先生
11月	○全体研修 指導案検討 1年 生活科 ○11月22日（水）全体授業研修 5学年部 授業者：金山 伊織教諭（5—2/算数科）	学びの変革推進協議会兼 義務教育指導課 福田菜津美指導主事 西部教育事務所 後藤 鮎美指導主事
12月	○12月13日（水）全体授業研修 1学年部 授業者：住岡 ありさ教諭（1—1/生活科）	広島大学大学院人間 社会科学研究科

	○本校児童に身に付けたい資質・能力について校内研修	永田 忠道准教授
1 月	○全体研修 指導案検討 6年 総合的な学習の時間 ○各学年の全体計画の見直し (学年部:「育てようとする資質・能力と各教科との関連」の視点から) ○次年度育成したい資質・能力の見直し	
2 月	○2月9日(金)全体授業研修 6学年部 授業者:寺川 千鶴教諭(6-3/総合的な学習の時間) ○研究成果の取りまとめ(研究推進部) ○ユネスコスクール活動調査回答 ○ユネスコスクール活動報告作成	広島大学大学院人間 社会科学研究所 永田 忠道准教授
3 月	○全体研修(来年度に向けた研究推進計画の策定)	